

「梁塵秘抄」を中南米へ

伊藤昌輝

「梁塵秘抄」という日本の古典をご存知でしょうか。

一昨年のNHK大河ドラマ「平清盛」は、次のような主題歌で始まりました。

遊びをせんとや生まれけむ 戯れせんとや生れけん
遊ぶ子どもの声聞けば わが身さへこそ揺るがるれ



この歌は「梁塵秘抄」に収められている今様歌謡のなかの名作の一つです。今様は、平安後期、11世紀後半から約200年ほど歌われたとみられる歌謡で、時の最高権力者である後白河法皇が集大成したものです。後白河院自身、若い頃から今様に耽溺し、晩年に「夏は暑く冬は寒きを返りみず、四季につけて折を嫌わず、昼はひねもすに歌いくらし、夜はよもすがら歌い明かさぬ夜はなかりき」と述懐しています。

昨年末、この歌謡集のスペイン語訳をベネズエラの出版社から刊行しました。国際交流基金の出版助成を得たものです。「方丈記」、「閑吟集」に続く第3弾です。スペイン語版のタイトルは「La danza del polvo」（塵の舞）としました。もともと「梁塵秘抄」という書名は、古代中国に虞公（ぐこう）と韓娥（かんが）という二人の美声の持主がいて、彼らの歌った声の響きに、梁（はり）の塵が舞い上がって3日間止まらなかったという故事に基づいているからです。

この歌謡集をスペイン語に翻訳するに当たってはベネズエラのロス・アンデス大学文学部教授で作家のエドノディオ・キンテロ氏の協力を得ました。やはりネイティブの作家との擦り合わせがどうしても必要です。その点、昔と違い現在はインターネットが強力な武器になります。郵便はおろかファックスでやりとりした時代にも難しかったことが可能です。13時間の時差ももってこいです。先方が寝ている間に仕事をし、夜寝る前に原稿を送れば、先方は朝起きてそろそろ動き始めようかという時間に受け取れます。

「梁塵秘抄」には、たとえば、

仏は常にいませども
現（うつつ）ならぬぞ あはれなる
人の音せぬ暁に
ほのかに夢に見えたまふ

のように仏教の教えを歌ったものもあれば、



神仏への思いを歌った歌謡や童謡のほか、農民・漁民・商人・山伏・猿楽者・巫女・遊女・博打うちなど、さまざまな階級の人々が登場し、生き生きとした姿を見せてくれます。そして、この歌謡集は北原白秋、佐藤春夫、石川啄木、斎藤茂吉などから称賛され、近代の日本の詩歌を肥やすのにも貢献したと言われます。

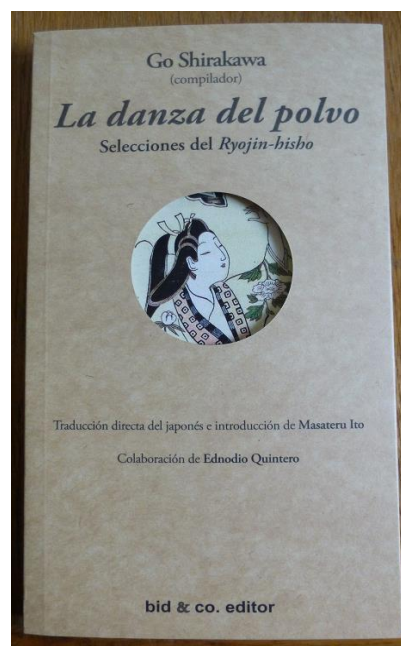
ちなみに上に引用した今様は次のように訳しました。

「遊びをせんとや、、、」は、

Así, pues ¿ hemos nacido
para cantar y bailar
y reír y jugar ?
Cuando oigo las voces
de los muchachos que juegan
siento que mi viejo cuerpo
se pone en movimiento.

また、「仏は常にいませども」は、

Buda está siempre aquí,
y con todo, triste pero cierto,
no se le ve en ninguna parte.
Pero alrededor del alba
cuando el ruido de la gente se ha acallado,
El aparece,
vagamente, en mis sueños.



日本の古典には「雅」の世界と「俗」の世界がありますが、今様はどちらかと言えば「俗」の世界のものでしょう。ベネズエラを始めラテンアメリカの人たちに「源氏物語」や和歌のもつ雅の世界とともに、日本の庶民が率直に心情を吐露した「梁塵秘抄」や「閑吟集」の俗の世界も知ってもらいたいものです。（了）